

福音の園だより

【第十一号 二〇〇五年十一月八日発行】

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎ 049・230・1111

Fax 049・230・1112

外部評価調査実施にあたって

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤卓巳
介護サービスは、利用者のプライバシーを守るため、人目に触れない形で提供されるという特性を持っています。そのためにグループホームの利用者とご家族が安心して質の高いケアサービスを受けられることを保証するため、サービスの質向上のための評価が必須となります。第三者による初めての外部評価が今月二四日、実施されます。評価内容は、①ご家族からのご意見(アンケート形式) ②ホーム職員による自己評価(各階毎) ③評価調査員による訪問調査の三つです。その一部を紹介します。①アンケート「問七・グループホームは、ご家族が気軽に会いに行きやすい雰囲気があり、訪問した際は、グループホームで居心地よく過ごすことができますか。」②自己評価項目「四三・馴染みの食器使用・家庭的な食器を使っておき、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっていますか。」
この項目の回答は各階で異なります。二階では馴染みの湯呑み(マイカップ)が食卓に置かれませんが、一階では利用者のAさんが毎食、お茶を入

れた湯呑みを配って下さるため、無用な混乱を考慮して同じ食器を使用しています。『生活作りのパートナーをめざす』一画一画的な支援の押し付けにならぬよう一人ひとりの生活作りのお手伝いをいたします。』という運営方針がこのような形で反映されています。一人ひとりの生活作りの視点の違いがどう評価されるのか興味津々です。

開園一周年記念バザー・来園者の声

涙が出て止まりませんでした

お天気のよい日に我が家の前を優しそうな職員の方とお散歩なさっている皆さんに何度か？お会いし、我が家のパグ犬にも可愛いネと頭をなでなでして下さいます。そんなご縁で、先日バザーにお伺いしました。手作りのキーキヤクッキー、手作りの手提げ、お手玉など色々頂戴して帰りました。孫達がとても喜んでくれました。ありがとうございます。その時、「福音の園だより」を初めて拝見しました。入所なさっているご家族の方々のお話でしたが、とても感動しました。涙が出て、涙が出て止まりませんでした。何度も何度も読ませていただきました。あまりいいニュースが聞けない現在、こんな素晴らしいホームがある事を知りました。お寒くなります。皆さまのご健康をお祈りします。(T・K)

ボランティアができる喜び

日曜日に姪の勤める福音の園に食事作りのボランティアに伺っています。昼食と夕食を作り、

皆さんと一緒にいただき、「おじさん、美味しかったよ」と利用者さんの笑顔が何よりも嬉しく、「おじさん、おじさん」と職員の人が声をかけて下さるのもとても嬉しく思います。家では静かな環境なのに昼寝もできなく、ホームでは賑やかな食堂のソファで一〜二時間ぐつぐつと昼寝ができます。摩訶不思議と思っております。長い間コックをやってきて、それが役に立ちよかったと思っております。これからも体の続くかぎり皆様に美味しいかどうか解りませんが作らせていただきます。この齢になりボランティアができる喜びを感じております。

良書紹介

『記憶が消えていく・アルツハイマー病患者が自ら語る』

著者 一関 開治

「アルツハイマー病患者が自らの体験を語った本は日本では初めて」という新聞書評欄に目にとまり、スタツフ図書用買い求めた。

若年性アルツハイマー病を理由に昨年一月、北海道北竜町長を辞任(五三才)した著者はすでに文章を書くことができないうため、本人と家族・関係者の証言を再構成する形でまとめられている。

「生きるということが、競争社会のなかで生き延びることだけを意味するのであれば、『できなくていい』というのは敗北を意味する。しかし、人間にとって生きるといふことが、それだけではなく、人と比較したり、競うのではなく、自分に与えられた条件の中で自分らしく生きていくことができるはずだ。」(一六七頁)という編者の言葉は、当ホームの運営方針と重なる。二見書房刊・税別一五〇〇円(ホーム長 杉澤卓巳)

Y・K